

平成29年度事務事業評価シート(28年度実績)

◎基本情報

事務事業名	文化振興事業		担当部署	市民環境部 文化交流推進課		
総合計画体系			根拠法令 計画など	鳴門市文化のまちづくり基本計画		
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業期間	開始	昭和	46年度
政策(中項目)	4	生きがいあふれるまち なんと			終期	未定
(小項目)		文化振興				
施策	4	暮らしの中で文化と創造が息づくまちづくりの推進				
基本事業	1	市民が参加・体験する機会づくり				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 鳴門市民						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	市民が文化・芸術に接し、発表することのできる機会の拡充や、文化の掘り起こしにより、多くの人々が文化・芸術を通じて交流し、にぎわいづくりを推進する。						
事業計画	28年度に何を計画していたか	鳴門市文化展・市展・芸能祭の開催及び市民文芸の発刊。市民ギャラリーその他文化事業を推進する。文化芸術活動の情報提供や音響・照明・映像機器の貸し出しなど、文化芸術活動を支援する。さらに、まちづくりに取り組む文化芸術活動を広報等で紹介したり、助成金申請等の相談に応じることで、文化芸術活動の活性化をサポートする。文化のまちづくり基本計画を基礎とした文化振興活動を行う。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
		文化ボランティア団体数	29	30	30	30	30	団体

◎実施結果(DO)

事業実施内容	28年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	5月に文化展、10月に市展、11月に芸能祭を開催し、3月に市民文芸を発刊した。また、文化月間(5月15日～6月14日)協賛イベントを募集し、決定した協賛イベントについて広報活動を実施したほか、年間を通して市民ギャラリーなどの文化事業を実施し、周知に努めた。文化芸術活動の活性化のため、文化活動サポート事業として音響・照明・映像機器の貸し出しなどを行った。徳島新聞社と共催でのコンサートやNHKとの共催による公開番組収録を開催した。					
事業実施手法		<input type="checkbox"/> 市実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
指標名		27年度実績	28年度実績	29年度目標	30年度目標	31年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 芸術祭開催延べ日数	26	26	26	26	26	日
	2 市民文化講座数	18	17	17	17	17	講座
成果指標 対象にどのような効果があったかを示す指標	文化ボランティア団体数	26	25	—	—	—	団体
	目標達成率(実績/目標)	83.3		—	—	—	%
今年度の進捗状況	ほぼ計画どおり	事業全体の進捗状況		計画どおり			(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成28年度	当初予算額	0	0	0	204	1,292	1,496
		補正予算額	0	0	0	0	0	0
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	204	1,292	1,496
		決算額	0	0	0	203	1,103	1,306
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(7,133千円/人)	臨時職員(2,043千円/人)		総人件費		総事業費	
		2.0	0.3		14,879		16,185	

事業費推移	年度	27年度決算	28年度決算	29年度	30年度	31年度
	事業費	1,075	1,306	1,360	1,076	1,095
	うち一般財源	872	1,103	4	4	4
	人件費	13,718	14,879	14,266	14,266	14,266
	総事業費	14,793	16,185	15,626	15,342	15,361

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		文化展・市展・芸能祭・市民文芸発刊など、計画どおり実施し、文化・芸術を通じたにぎわいづくりができた。
	効率性	B:概ね効率的だった		より継続性のある団体主体の文化協会運営ができるように体制づくりを進めた。
②成果に対する評価	指標名	文化ボランティア団体数		高齢化が進んでいる団体が多く、担い手を確保できない団体については活動継続が困難になりつつあり、目標に届かなかった。
	目標	30	団体	
	実績	25	団体	
	評価	B:概ね目標を達成できた		
③総合的な評価		<b>B</b>		概ね計画通り事業を実施し、周知・広報に努めたことにより、文化・芸術を通じたにぎわいづくりにつなげることができた。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	高齢化が進み、担い手を確保できない団体が活動継続が困難になりつつある。既存の文化事業を継続して実施するとともに、さらなる文化振興、にぎわいづくりのため庁内各課との連携を図り、NPO等関係団体の協力を得ていかなければならない。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	<b>3</b>
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H29年度	文化団体の活動を広報等で紹介したり、助成事業等の相談に応じたりすることで、文化ボランティア活動の活性化を図る。また市民が文化・芸術に接し、発表することのできる機会の拡充や、文化の掘り起こしにより、多くの人が文化・芸術を通じて交流する機会を創出し、にぎわいづくりを推進する。			
	H30年度	前年度の検証を行い、引き続き文化・芸術を通じたにぎわいづくりを推進する。			